四十四年十一月

台湾ノ糖業ニ対スル

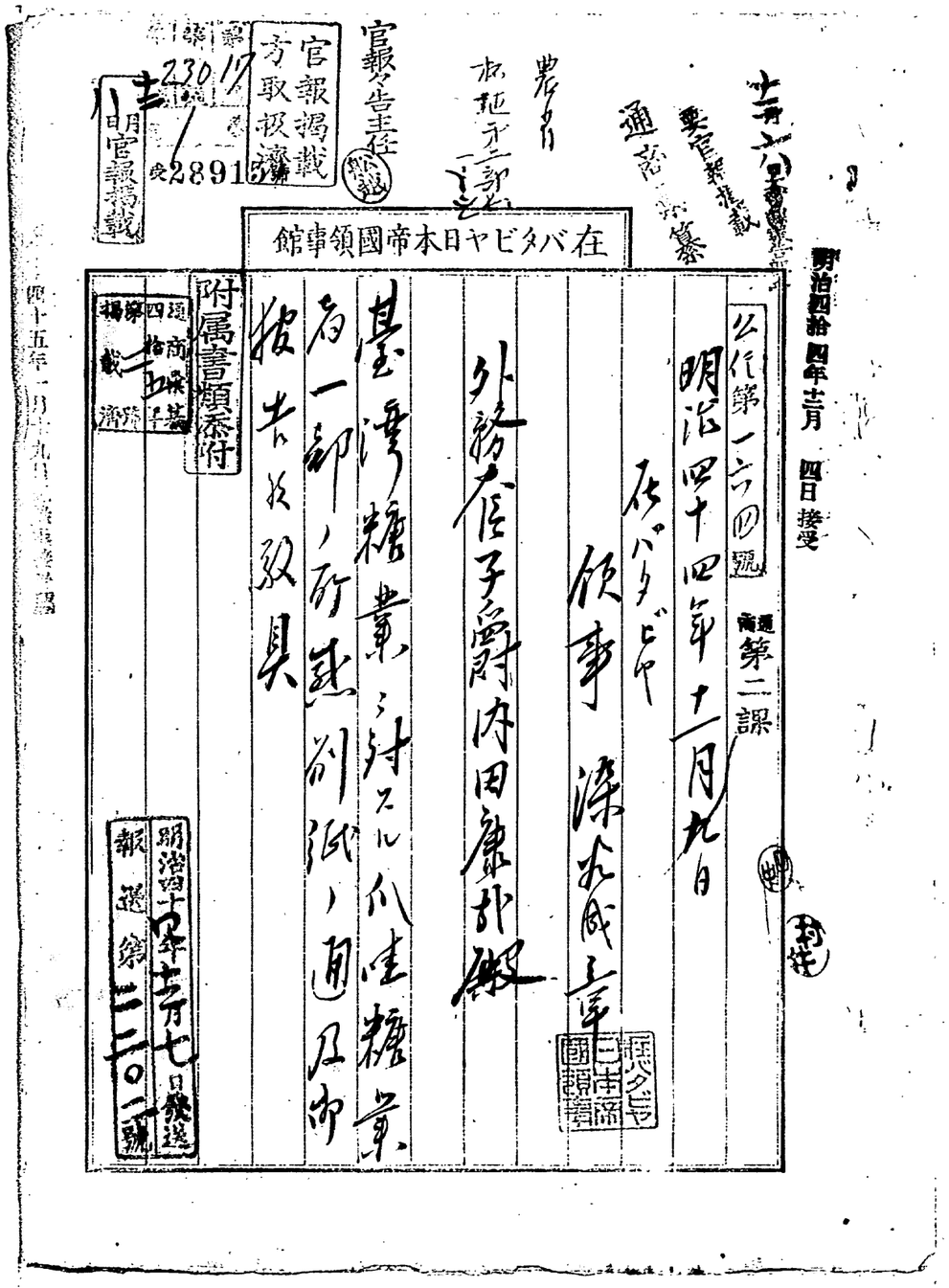
仏蘭西業者ノ動静ニ関スル件

外務省

3-1351

0206

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



大正六年十二月廿六日 要官報掲載

通商第二課

通商第二課

通商第二課

3

臺灣糖業ニ対スル爪哇糖業者ノ好感

近年臺灣糖業ノ勃興ハ深ク當地方糖業者ノ注意ヲ喚起シ爪哇糖業者團体ノ機関雑誌 *Orgaan van de Suikerindustrie in Nederlandsch-Indië* 及農務部農工課刊行ノ農工彙報ハ時々臺灣及本邦糖界ニ関スル有益ナル統計及報告ヲ掲載シツヽアリ就中此頃発行ノ爪哇糖業者機関雑誌ニ掲載セラレタル一論文ハ本邦當業者ノ参考ト

（原文）スレハ左ノ如シ曰ク

ナルヘキヲ以テ其大要ヲ略述ス

爪哇糖ノ日本輸入高ハ明治三十四年ノ統計（日本税関及貿易年報ニ依ル）ヨリ四十年ノ二十六万九千三百三十七担ノ巨額ニ上リ之ニ恐リハ爪哇三十六封度）ヨリ四十年ノ三百十八万六千九百十担ノ巨額ニ上リ之ニ恐リハ爪哇糖ノ日本市場ニ於ケル最大限度ナルヘシ其後四十一年ニ増加シ其百分比例ハ三十九年ニ相当シ殊ニ三十九年

在バタビヤ日本帝國領事館

糖ノ日本市場ニ上リタル最大限度ナルヘシ其後四十一年頃ヨリ台湾ニ於ケル糖業ハ多大ノ発達ヲ為シ其産出糖ハ漸次外国糖ヲ日本市場ヨリ駆逐シ目下僅カニ余命ヲ保ツノミ爪哇糖ノ一種アルノミナリ此事実及布哇産砂糖ハ早ク其影響ヲ日本市場ヨリ没シ去ルニモ拘ラズ爪哇糖ノ一種ニ限リ今尚若干ノ輸入ヲ見ル所以ノモノハ

(一) 原料糖ナルコト (二) 爪哇天賦ノ沃土ト気候ノ順調トハ糖蔗ノ含糖量ヲ高メ (三) 労賃ノ低廉ハ生産費ヲ最小限度ニ節約スルコトヲ厚ク為ニ因ヲスンハアラズ

又臺灣糖業ハ発達ヲ遂ケタルニ安堵ナルハ爪哇糖ト生産特来永久日本市場ヲ維持スルコトハ絶対ニ困難ナルノミナラズ台湾糖ハ近来日本内地市場ノ需用ニ満足セズ遠ク英領加奈陀方面ニモ移出ヲ試ミ又他ノ

一面ニ於テハ英領印度ニモ其販路ヲ求メントスルモノヽ如シ加奈陀方面ヘノ輸出ハ爪哇當業者ニ執リ大ナル影響ヲ受クルモノヽ如キモ非ラサルモ俞々本糖ノ南下シ爪哇糖ノ最大市場タル英領印度ヘ侵入ヲ試ムルコトハ爪哇糖業者ニ頗ル憂慮スヘキ事項トシテハサルヘカラス抑モ英領印度ハ国内ニ住民多ク砂糖ノ生産高世界ニ冠タリト雖ヘトモ尚外国糖ノ輸入年毎ニ其数量ヲ上進シ今ヤ其額二千万瓩ノ輸入ヲ見爪哇白糖ノ最大市場タリシ故ニ爪哇糖業者ハ台湾糖ノ生産及輸出ニ細心注意シ爪哇糖ノ販路維持ニ務メサルヘカラス云々

在バタビヤ帝国領事館

0209
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

送第一四七號

明治三十四年十二月七日 在ベタビア領事館ヨリ送付 外務省

十月

臺灣ノ糖業ニ対スル爪哇糖業者ノ一部ノ所感

臺灣 明治四十四年十二月八日 第五四七號

近年臺灣ノ糖業ノ勃興ハ深ク當地方糖業者ノ注意ヲ喚起シ爪哇糖業者ヲ圍繞ノ機関雑誌 *Orgaan van de Suikerindustrie in Nederlandsch-Indië* 及農務部商工課刊行ノ商工彙報ハ時々臺灣及本邦糖界ニ関スル有益ナル統計及報告ヲ掲載シツヽアリ就中此頃発行ノ爪哇糖業者機関雑誌ニ掲載セラレタル一論文ハ本邦當業者ノ参考トナルヘキヲ以テ其大要ヲ別紙(述)スレハ左ノ如シ

爪哇糖ノ日本輸入高(明治三十四年ノ総額三九〇、二八七担(百三十六封度)ヲ四十年ノ二、六九〇、三三三担(日本税関年報ヲ参照セルモノト見利ス)ニ増加シ其百分比例六倍三割増ニ相当シ殊ニ三十九年ハ三百十八万六千九百十担ノ巨額ニ上リシ之レ恐クハ爪哇糖ノ日本市場ニ上リタル最大限度ナルヘク其後四十年頃ヨリ台湾ニ於ケル糖業ハ多大ノ発達ヲ為シ其産出糖ハ漸次外国糖ヲ日本市場ヨリ駆逐シ目下僅カニ余命ヲ保ツハ爪哇糖ノ一種ナルミサリ比律賓及布哇産砂糖ハ早ク其影ヲ日本市場ヨリ没シタルニ拘ラス爪哇島ノ一種ニ限リ今尚若干ノ輸入ヲ見ル所以ノモノハ

(一)其原料糖ナルコト

(二)爪哇天賦ノ沃土ト気候ノ順調ナル糖蔗ノ含糖量ヲ高メ

(三)労賃(銀)ノ低廉ハ生産費ヲ最小限度ニ節約スルコトヲ厚クシタルニ因ラスンハアラス

又臺灣糖業ノ発達ヲ待ツテ安價ナル爪哇糖ト生存ヲ争フヘキ将来永ク日本市場ヲ維持スルコトハ絶対ニ困難ナルヘシ

台湾ノ糖ハ近来日本内地市場ノ需用ニ満足セス遠ク英領加奈陀方面ニ移出ヲ試ミ又他ノ

在バタビヤ日本帝国領事館

3-1351

0210

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一面ニ於テハ英領印度ニモ其販路ヲ求メントスルモノヽ如シ加奈陀方面ヘノ輸出ハ爪哇當業者ノ一トリ大ナル影響ヲ受クルモノヽ如シ彼ノモノヽ如キサルモ金々日本糖ノ南下シ爪哇糖ノ最大市場タル英領印度ヘ侵入ヲ試ムルコトハ爪哇糖業者ヲシテ頗ル憂慮ヲ抱キ事項ト云ハサル可カラス殊ニ英領印度ハ国内ニ住民多ク砂糖ノ生産高世界ニ冠タリト唱フルニモ尚外国糖ノ輸入ハ年毎ニ甚敷量ヲ上進シ今ヤ年額二千万ピクルノ輸入ヲ見爪哇白糖ノ最大市場タリ故ニ爪哇糖業者ハ台湾ノ糖ノ生産及輸出ニ細心注意シ爪哇糖ノ販路維持ニ務メサル可カラス云々

在バタビヤ日本帝國領事館

3-1351

0211

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

23017

文書課長 松越

明治四拾四年十二月六日接受

明治四拾四年十二月七日 起草

同年十二月七日閲

主任

主管

送第一五四號

商局長

局長

明治四拾四年十二月七日達

拓殖局一部

殖産興業上ニ関シ拓殖事業ニ対シ

成

外務省

明治四十四年十二月八日

右ノ趣貴局ヘ通牒ス

拓殖局長

書本 校閲

3-1351

0212

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

3-1351

0213

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

附属書類添附

第01254號

44

拓殖局 五〇七號

明治四拾五年壹月拾七日 到達

南通 第二課

本月七日付送第一五四號ヲ以テ送致ノ本邦人ハ爪哇糖業ニ關スル仙哇糖業者ノ所説ニ付在バタビヤ領事ノ報告書閲了候ニ付及送付候也

明治四十五年一月十六日

拓殖局第一部長宮尾舜治

外務省通商局長坂田重次郎殿

四十五年一月十七日記錄ス 梅

拓殖局